

女性消防団員を 任用したワケ

本業を持ちながら、地域の安全と安心を守るために活躍している行田市消防団。6方面隊(団本部・機動・中央・西部・南部・北部・東部)21分団で構成され、団長以下262人(平成25年10月1日現在、女性消防団員も含む)の団員が所属しています。

消防・防災に関する知識や技術を習得している団員は、火災発生時における消火活動はもとより、台風や豪雨などの風水害、さらには大規模地震が発生した場合、救助・救出活動なども行います。また、日ごろから訓練や機械器具・水利などの点検を行うなど、災害に備えて地道な活動も行っています。消防団は、地域防災の中核的存在として、大いに活躍することが期待されているのです。

しかし、近年では、就業構造の変化や若年層の都市部への流出、地域の連帯意識の希薄化などにより消防団を取り巻く環境は大きく変化し、男性消防団員の減少が続いています。このような状況は本市だけでなく、全国の消防団が抱えている課題となっています。その一方で、消防団に入団する女性が年々増え

団 私たちが輝ける場所

の安心・安全の中核的な担い手である消防団員は、市民の命と財産を災害から守るという強い使命に燃え、勇敢かつ献を持った行田市消防団に、今年の4月から10人の女性団員が仲間入りし、消防団員として新たな一歩を踏み出しました。知識や技術を身に付けようと努力するひたむきな姿や消防団活動にかける思いを紹介します。



しており、大いに活躍しているのも事実です。

本市でも、今年の4月に初めて女性消防団員10人を任用しました。これは単に男性消防団員の減少を補うためではなく、さらなる消防団組織の活性化や地域の多種多様なニーズに 대응していくことを目的としています。

女性ならではの視点を取り入れた活動を行うことで、男性団員だけでは難しかった活動もでき、地域防災力の向上に大きく貢献するのです。



団員の年代や職業はさまざま。「和気あいあいとした雰囲気の中で、研修に参加しています」と皆さんは笑顔を見せます。

女性消防

「自分たちのまちは自分たちで守る」地域的に日々活動しています。この熱い気持ちここでは、そんな彼女たちが、活動に必要な

女性消防団員の

活動とは？

市内全域を統括する「団本部指揮班」に所属している女性消防団員。教養研修や応急手当普及員講習など、これまでさまざまな研修を受けてきました。

そして来年度、研修で身に付けた知識や技術を生かし、本格的な活動が始まります。消防団の活動というと男性が消火活動をしているイメージが強いのではないのでしょうか。実は、消防団活動には女性に適しているものがたくさんあるのです。その主な活動内容は次の4つです。

① 防火活動（高齢者世帯などへの防火訪問、自治会および子供

会などへの防火活動、幼児・児童への防火教育）

② 広報活動（火災予防運動および歳末特別警戒におけるPR活動、各種祭り・イベントおよび訓練におけるPR活動）

③ 自治会、子供会などの各種団体への応急手当での普及推進活動

④ 大規模災害時における災害活動部隊などへの情報収集・連絡、救急・救護、食料などの供給といった後方支援活動

どの活動も、「気配り」「優しさ」など女性ならではのチカラを発揮することが期待されるものばかりです。市民の消防防災活動に対する関心をさらに高めるためには、彼女たちのこれからの活躍が力ギを握るのです。



今年4月に初めて任用された10人の女性消防団員の皆さん。この日初めて制服を着用し、緊張した表情で写真撮影に臨みました（8月21日撮影）。